

平成 29 年度 小田原東高等学校学校目標

	視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	① 共通教科の基礎学力の定着を図るとともに、学習内容を伸張させ、多様な進路選択に対応できる学力向上を図る。 ② 言語活動の充実を図り、生徒のやる気を引き出すとともに、達成感を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を養い、自信と自己肯定感を育む。	① 基礎学力の定着及び総合的学力の向上 ② 生徒の自己肯定感を育む。	① 総合ビジネス科及び普通科の教育課程の見直しを図るとともに、両学科の特長を生かし、学力向上に努める。 ② 言語活動の充実を図り、組織的な授業改善に努め、生徒のやる気を引き出すとともに、達成感を持たせる。	① 基礎力診断テストやスタディーサポートにおいて改善が見られたか。 ② 生徒による授業評価の項目②「授業の充実感」、項目⑧「態度・姿勢」の評価が向上したか。
2	生徒指導・支援	① 生徒の課題に応じた専門知識を身につけ、組織的な個別指導体制を充実させる。 ② ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けた一流の高校生を育成する。	① スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用 ② ビジネスマナー教育の推進及び基本的な生活習慣の定着	① 生徒が抱える課題を的確に把握すべく、ケース会議を開く体制を確立する。 ② 再登校指導等により、身だしなみをはじめとする基本的な生活指導を習慣づける。	① 課題が発生した場合の定められた手順に従って解決に導けたか。 ② 服装、頭髪、遅刻指導等、前年度より以上の改善が見られたか。
3	進路指導・支援	① 確かな職業観や勤労観を身につけさせるため、学年の成長過程に応じた継続性のあるキャリア教育を推進する。 ② 生徒の希望する進路を実現するため、学習指導と連携し進路指導の充実を図る。	① 学年段階におけるキャリア教育の充実 ② 進路未決定者ゼロ	① 早期の情報提供や各種説明会、外部講師や高大連携を通じ、生徒・保護者の進路意識の啓発を行う。 ② 進路に悩みを抱えている生徒に対し、担任とは異なった視点からアドバイスしてもらえるサポートティーチャーを活用した進路相談制度を整え、担任との情報共有を図る。	① 説明会、外部講師や高大連携授業を通じて、生徒・保護者の進路意識は向上したか。(アンケート等により確認) ② サポートティーチャーへ相談しているか。(回数及び満足度をアンケート等により確認)
4	地域等との協働	① 地域交流を深める取組みを推進する。 ② さまざまな機会を利用し、広報活動の充実を図り、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。	① 地域やOB等の外部講師の活用 ② PR活動の充実	① 近隣住民および近隣学校との連携により津波合同避難訓練・防災講演会を実施するとともに、災害時の防災用品の管理および整備をおこなう。 ② 学校説明会、公開講座及び学校HPの更新等を活用し中学生、地域住民への継続的な情報発信を行う。	① 地域との連携により防災意識を高めることができたという結果が7割以上であったか。 ② 学校の認知度が上昇したか。また学校への理解がより深まったか。(アンケート等により確認)
5	学校管理 学校運営	① 学校周辺の環境に配慮した災害への安全対策を一層強化させる体制整備を推進する。 ② 事故不祥事を起こさない、風通しの良い職場環境を構築するとともに、職員及び生徒が夢を持ち、夢の実現のため生き生きと活動できる学校づくりを行う。	① 避難訓練の充実及びDIG(災害図上訓練)の実施 ② スチューデントファーストの視点に立った教育活動	① 職員および生徒の校内DIG訓練を行い、防災意識の向上を図る。また、避難訓練を通して、地域と連携をとりながら防災教育の質的向上を目指す。 ② 事故不祥事防止年間計画を立て同僚性を活かした研修会を企画し、実施するとともにスチューデントファーストの視点を持った教育活動を行う。	① DIG訓練により防災意識を高めることができたか。また、校内研修やDIG訓練を通して学校周辺の地理的状況や災害時の視点を持つことができたか。 ② 校内研修会を実施し、職員の意識の向上を図ることができたか。またスチューデントファーストの視点を意識した教育活動ができたか。